絵本だーいすき！

あかちゃんと絵本を楽しむために･･･

あかちゃんが生まれると「絵本が大好きな子になってほしいな」と誰もが思うことですよね。

地域子育て支援拠点でも絵本を読む機会が多いのですが「絵本をみんなと一緒に見ない」「途中でどこかに行ってしまって最後まで見ない」「自分でページをめくってしまう」等、悩んでいる保護者の声が聞こえてきます。

あかちゃんも「今は絵本じゃなくて、おもちゃで遊びたい」等の思いがあるので、焦らずに機嫌のいいときに少しずつ見せてあげるようにしてあげるといいかもしれません。遊びながらも「チラッ」と気を向けてくれたらいいなというぐらいの気持ちで読んであげるといいですね。

この時期はまだ絵本の内容を、ひとつのお話として理解することは難しいので、興味を持ったページを何回も繰り返し開いて見たり、同じ本を何回も見ていることがあります。「ここを開いたら、ブーブーがある」「わんわんがいる」等「本を開くと楽しいことがある」と感じてくれることが大切です。そこには、お母さん、お父さんたち大人の笑顔ややさしい語りかけもなくてはならないものです。

子どもは、お父さん、お母さんの膝の上に座り、心のぬくもりを感じながら「愛されている」という体験を積み重ねていきます。大人も身体を寄せて一緒に見ることで、自然と心が落ち着きリラックスします。

上手に読もうとがんばりすぎず、お母さん、お父さんのいつもの語りかけで大丈夫。子どもたちにとっては、それが何より心地いいのです。

絵本の角や端を噛んでしまうと、お母さんとしては悩んでしまいますよね。この時期のあかちゃんは、何でもなめたり噛んだりして「これはどんなものなのかな？」と確認しています。紙を飲み込んでしまうことは、気をつけないといけませんが、だからと言って絵本に触れさせないというのではなく、「少し絵本に興味を持ち始めている」ということでもあるので、破れないような厚紙の絵本を選んだり、「わんわんの絵本、大事だいじだよ～」等と絵本の修理をして見せたりして、叱るのではなく絵本の大切さを根気よく伝えていきましょう。